

入学の子の齒と欠いて笑いあふ

上澤孝二

多喜二忌やスクリー光る祝津浜

山本俊郎

地平線真雁編隊北帰行

山本俊郎

残雪や暑寒別岳凜として

松原智津子

囁りや榛の梢と弾ませつ

松原智津子

松籟と間伐の音春遅々と

滝田慶子

古衣を縫って確定申告期

滝田慶子

ふらこことを蹴ってしばしのピエロかな

船矢美幸

春宵和服の裏玉の薄化粧

船矢美幸

大空へ春の光と旅立てり

伊東次雄

ほろにかき青春の憶い落の臺

伊東次雄

命綱つけて磨けり春の空

木宮節子

春眠や宇宙遊泳より戻る

木宮節子

春光や青かびチーズ厚く切る

森山圭悦

水温むジンベイ鮫の昼餉どき

森山圭悦

海開き真白き砂は珊瑚粒

杉野一博

障子戸の指紋の消えて鯨群来

杉野一博

芽吹く影空にららばり体温計

杉野一博